

教育研究等環境の整備に関する方針

〔大学全体の方針〕

本学の建学の精神を具現化するため、次の方針を掲げ、教育研究等環境の整備を進める。

＜教育研究等環境に関する方針＞

1. 教育・研究活動にさらに貢献できるように施設・設備等を整備する。
2. 有限である予算や様々な資源が合理的かつ効率的に利用されるよう調整を行う。
3. 学生、教員、その他の大学施設利用者が安心して利用できるよう施設・設備の整備を行う。
4. 学生にとっての交通アクセス等の改善を関係機関に働き掛け、大学施設利用者の満足度向上を図る。
5. 全学的図書館機能の強化（校舎間連携の強化、研究所等の蔵書との連携）と図書館サービスの充実を図るとともに、保存書庫のあり方について検討する。
6. 本学の教育研究等環境を利用する全ての研究者が、十分に能力を発揮できるよう研究環境の整備に努め、研究者の成長と適性に応じた資質・能力の形成に配慮するとともに、よりすぐれた研究を促進するための研究環境、研究体制・政策を検討する。
7. 校舎の立地、歴史、周辺環境にも配慮して、校舎別の環境整備に努める。

ア. 名古屋校舎

名古屋市のささしまライブ 24 地区開発コンセプトである①環境、②国際歓迎・交流拠点、③まちづくり・にぎわいをコンセプトとした再開発計画に則り、名古屋市と緊密に連携をとりながら計画を進める。

教学環境の充実やささしまライブ 24 地区のコンセプトである「まちのにぎわいづくり」等に貢献するために、名古屋校舎の第 2 期工事（本館（研究棟）、グローバルコンベンションホールの建設、既設棟改修）を 2017 年春の供用開始に向けて進め、教育研究環境の充実を図る。併せてラーニングコモンズ、グローバルラウンジ等の学生の学習スペースの整備を行う。

イ. 車道校舎

交通至便でありながらも、校舎面積・施設が限られていることを念頭に置きながら、社会人への対応や研究者を含む高度な専門職業人の養成、さらには法人本部機能の集約を基本とする。

専門職大学院を中心とする専門教育の充実、高度な専門職業人の養成の拠点としての機能強化を図ると共に、近隣に住宅街を抱え交通の利便性が高く一定の受講者が見込めるオープンカレッジ、孔子学院の維持・拡充を図り、さらには、学部・研究科の教育活動の分拠点としての活用を検討する。そのために必要な施設整備等を行う。

また、名古屋キャンパスとの一体的運用を視野に入れた校舎の有効活用も検討する。あわせて、開校後10年が経過したことを考慮し、年次計画を策定して修繕とオーバーホールを実施し、施設及び設備の維持に努める。

ウ. 豊橋校舎

本学創設時のキャンパスであるという歴史と周辺が文教地区であるということを踏まえて、①老朽化した施設・設備の更新、改修、②緑の保全を含む環境整備の取り組みを強化する。具体的には、2017 年度までの教室棟の修繕計画を中心とした豊橋校舎設備整備に関

する整備計画案に基づき、順次、実行に移していく。

併せて、図書館内のラーニング commons の整備、6号館教室の多目的教室への改装など、学生のアクティブラーニング支援のための環境整備を、2017年度供用開始にむけて進める。